

情熱溢れる演奏で大人気のシャンバダール・ベルリン響。
カリスマ性溢れる鍵盤の貴公子、オーエンと話題のラフマニノフで初共演。

ドイツの歴史と伝統を今に引き継ぐ

ベルリン交響楽団

シンフォニカー

ピアノ アンドリュー・フォン・オーエン リオール・シャンバダール 指揮

Cond:Lior Shambadal / Berliner Symphoniker / Andrew Von Oeyen (Piano)

Berliner Symphoniker

Lior Shambadal



エルガー Elger

「威風堂々」第1番

'Pomp and Circumstances' No.1 D-major op.39-1

ラフマニノフ Rakhmaninov

ピアノ協奏曲 第2番

Piano Concerto No.2 c-minor op.18

ベートーヴェン Beethoven

交響曲「第7番」

Symphony No.7 A-major op.92

2010

7/4 (日) PM1:30開演

愛知県芸術劇場コンサートホール

S¥10,000 A¥8,000 B¥6,000 C¥4,000 学生¥3,000 (税込)

主催：中京テレビ放送、FM AICHI

3/5 (金) AM10:00~
発売開始!

Andrew Von Oeyen

お問合せ
お申込み

中京テレビ事業 ☎052-957-3333 インターネットからでもお申込み頂けます。
〒460-8613 名古屋市中区錦3-15-15 CTV錦ビル6F (営業時間/月~金 AM9:30~PM5:30 土・日・祝日休業) <http://cte.jp> 中京テレビ事業 検索

学生券

ご希望の方は住所、氏名、年齢、電話番号、学校名、学籍番号を明記の上、中京テレビ事業「学生券」用紙でお申込みください。公演の3週間前に会場にお席をお取りできる場合がございます。注：1公演につき、1公演1名様でお申し込みいただけます。

チケットぴあ (Pコード347-375) 0570-02-9999 栄プレチケ92 (旧三越PG) 052-953-0777
愛知芸術文化センターPG 052-972-0430 中目サービスセンター(中目ビル1F) 052-263-7282
ローソンチケット (Lコード40370) 0570-084-004 イープラス eplus.jp 毎、有休プレイガイド

※プログラム内容変更になる場合がございます。予めご了承ください。※来観券児童のこ入場はご同席の場合でもお断り致します。

ドイツの伝統を誇る名門オーケストラ ベルリン交響楽団

Berliner Symphoniker

ベルリン交響楽団は、1952年に創設された「東ドイツのベルリン交響楽団」に相対するオーケストラとして、1966年に当時の西ベルリンで設立され、以来、音楽の街ベルリンで長く市民に愛され続けている。1997年、5代目の首席指揮者に就任したリオール・シャンバダールは、過去の来日公演でも圧倒的な統率力を魅せた。その後、海外ツアーやレコーディングなど、精力的に活動を広げ、ベルリン交響楽団の新時代を築き上げる。ベルリンでの音楽祭は勿論のこと、ロンドン・プロムス、エディンバラ、イスタンブール、フランクフルト、カイロなど世界の主要な音楽祭に参加している。地元ベルリンのコンサートでは、シャンバダールの手で鍛え上げられたモーツァルト、ベートーヴェン、ブラームス、メンデルスゾーンなど、古典の交響曲をプログラムの中心にもってくることで、耳の肥えた聴衆を拡大してきた。

なお、このオーケストラの特徴として、次の世代へ優れた音楽を継承していくべく、音楽教育活動を以前にも増して充実させている。ベルリン・フィルハーモニーホールとシャウシュビールハウスで定期演奏会を続けているほか、ベルリンにおいて、ベルリン音楽アカデミーと協同で様々な教育的なプログラムを行っている。この教育的プロジェクトは、ベルリン交響楽団のあらゆる活動の中でも特筆すべき点である。

2002年10月に初来日したベルリン交響楽団が、期待に応えて5度目の来日を果たす。

■ 指揮 リオール・シャンバダール

Lior Shambadal

1950年テル・アヴィヴに生まれ、幼い頃よりヴィオラ、作曲、指揮を学ぶ。その後、イスラエルを離れ、ザルツブルクやウィーンでハンス・スワロフスキーに、イタリアではフランコ・フェラーラやカルロ・マリア・ジュリーニ各氏に師事する。現代音楽や作曲にも興味を持ち、パリでヴィトルド・ルトスワフスキーのもと、さらに勉強を続ける。

1980年には、イスラエルのハイファ交響楽団の首席指揮者に就任し、1986年からはテル・アヴィヴ室内オーケストラの音楽監督も務める。これらのオーケストラと共に多くのヨーロッパ公演を行ない、様々なレコーディングをプロデュースしている。1993年、ドイツのカイザー・スラウテルン歌劇場の音楽総監督(音楽監督兼首席指揮者)に就任し、2000年まで務める。

1997年からはベルリン交響楽団の首席指揮者となり、1999年にはスロヴェニア放送交響楽団の首席指揮者にも就任する。ここ数年の間、フィレンツェ五月祭管弦楽団、イスラエル・フィル、アントワープのロイヤル・フランダース・フィル、フェニーチェ歌劇場、デンマーク放送交響楽団等のオーケストラに、客演指揮者として招かれている。

音楽に対する誠実な姿勢と、身体から迸る情熱で聴衆を魅了し、2002、2004、2007年及び2008年の来日公演では各地で絶賛を博す。

■ ピアノ アンドリュー・フォン・オーエン

Andrew Von Oeyen

◇今日では華麗なテクニックがあたりまえであるが、オーエンの演奏はその上を行く。彼は、鍵盤で表現したいことを聴衆に明確に伝える力を持ち合わせている。

(シカゴ・トリビューン)

◇オーエンは、時にエレガントに、ある瞬間は情熱的に、そして次に優しくと、次々異なる魅力を醸しだしていた。(フィラデルフィア管とのラフマニノフ協奏曲第3番の演奏)

(フィラデルフィア・インクワイア紙)



オーエンは、同世代のピアニストの中で、最も魅力的なアーティストのひとりとして広くその名を知られている。16歳でエサ=ベッカ・サロネン指揮のロサンゼルス・フィルと協演し、ピアニストとしてデビュー以来、リサイタルやオーケストラのソリストとして、世界中で喝采をもって迎えられてきた。

この数シーズンのうちに、オーエンは、フィラデルフィア交響楽団、サンフランシスコ交響楽団、ロサンゼルス・フィル、デトロイト交響楽団、セントルイス交響楽団、アトランタ交響楽団、シアトル交響楽団、シンガポール交響楽団、スロヴァキア・フィル、ザグレブ・フィルと共演。リサイタルでは、ロンドンのウイグモアホール、ケネディ・センター、ラヴィニア音楽祭、ニューヨークのアリス・トゥリーホール、ボストンのジョージ・タウン・ホール、ロサンゼルス・ジャズ・コンサートホール、フランスのヴァロア・ピアノ音楽祭、日本の主要なリサイタルホールに登場している。音楽祭では、アスペン、ラヴィニア、グラン・パーク、スポレート、フェスティバル・デル・ソル(ナバハレー)、グラン・テトン、ギルモアの各フェスティバルに招かれている。オーエンは、1999年のギルモア・ヤングアーティスト賞受賞に続き、2001年には第1回ルニ・フェ財団ナショナルピアノコンクールで優勝している。

2009~10年のシーズンには再び日本を訪れ、ベルリン交響楽団との公演のほか、11月にはリサイタルも行う予定である。その他、サラ・チャンとの共演で、ヨーロッパ、アメリカ、アジアで公演を行なう。

オーエンは、1979年アメリカ生まれ。5歳よりピアノを始め10歳でオーケストラと共演している。コロビア大学を卒業後、ジュリアード音楽院に進み、ハーバート・ステッソン、ジェローム・ローヴェンタールに師事し、アルフレッド・ブレンデルやレオン・ライシャーの教えも受けている。現在、ニューヨークとパリに居を構える。